

## Ⅲ その他

### 【自由意見】

今回の調査では、有効回答数 5,658 人のうち、1,188 人の方から自由意見が寄せられました。

いただいた自由意見について、調査に関する御意見と調査以外のことに関する御意見の 2 つに整理しました。

#### (1) みえ県民意識調査に関する御意見 (151 件)

今後でもできる限り多くの方に回答いただけるよう、御意見を踏まえ、調査方法の改善などについて努めてまいります。

なお、以下に具体的な御意見の例を記載します。

#### ① 目的や活用に関すること

- ・ このアンケートが政策に活かされていることがはっきり分かった方が協力する人も増えると思います。
- ・ 結果の有効活用に期待します。
- ・ アンケートの内容をよく考えた上での実施をお願いします。子どもをもつ家庭だけでなく、高齢者、障がいのある方、独身者等、すべての人が安心して暮らせる県にしていただければと思います。
- ・ アンケートが反映されることを望みます。

#### ② 調査票の内容や構成に関すること

- ・ 外来語等カタカナ文字が増加する現状において、無作為抽出であれば、容易で分かりやすい言葉を使う必要がある。もう少し多角的に考えてほしいものです。
- ・ 自分の幸福感や環境などについて、改めて振り返ることが出来た。こういう機会を発信してほしい。
- ・ 問いに対して、選べる項目があっていない問いも、あると思われます。
- ・ 自分の考えが選択肢の中から選び難いことが多かったと思います。
- ・ アンケート調査をする事によって社会との関わり、環境問題に関心を持つようになった。

#### ③ その他（実施方法、公表など）に関すること

- ・ 高齢者社会に向けての取り組みアンケートを実施して欲しい。
- ・ 将来ある若い人に調査していただくことを望みます。
- ・ 時間をさいてアンケートに参加したのだから、県民だよりに入れたり、もっとみんながすぐ見れる場所とかに公表してほしい。
- ・ インターネットによる回答ができるので便利でした。

(2) 調査以外のことに関する御意見 (1,197 件、再掲も含む)

さまざまな分野に関する御意見もたくさんいただきました。

県政に関する御意見につきましては、関係部署に伝達し、諸施策の今後の展開を検討するための参考資料として活用させていただきます。なお、参考までに「みえ県民カビジョン」における 15 の政策別、その他に分類した内訳は次のとおりです。

「みえ県民カビジョン」

I-1	防災・減災、国土強靱化	12 件
I-2	命を守る	25 件
I-3	支え合いの福祉社会	29 件
I-4	暮らしの安全を守る	13 件
I-5	環境を守る	29 件
II-1	人権の尊重とダイバーシティ社会の推進	12 件
II-2	学びの充実	16 件
II-3	希望がかなう少子化対策の推進	59 件
II-4	三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功と レガシーを生かしたスポーツの推進	18 件
II-5	地域の活力の向上	27 件
III-1	持続可能なもうかる農林水産業	15 件
III-2	強じんて多様な産業	7 件
III-3	世界の三重、三重から世界へ	14 件
III-4	多様な人材が活躍できる雇用の推進	18 件
III-5	安心と活力を生み出す基盤	101 件
	その他(行政全般・知事に対して等)	463 件
	新型コロナウイルス感染症に関すること	188 件

## (参考) 標本誤差と調査の精度

母集団の一部を標本として抽出し、その回答からもとの母集団全体について推定する標本調査では、“真の値”（全数調査を行えば把握できるであろう値）との差が発生することが避けられません。この“標本誤差”は、次のような手順で見積もることができます。

まず、今回のように大きな母集団から標本を無作為抽出する調査では、ある選択肢が選ばれた比率（回答比率） $p$ の“標準誤差”（回答比率の標準偏差）が次のように求められます。

$$\text{標準誤差} = \sqrt{\frac{p(100-p)}{n}} \quad n : \text{回答者数 (人)} \quad p : \text{回答比率 (\%)}$$

標本誤差はこの標準誤差と、結果に求める“信頼度”から見積もります。例えば、信頼度を、最も広く使われる95%（間違える確率が5%）とすると、標本誤差は次の式のように求めることになります。

$$\text{標本誤差} = 2 \times \text{標準誤差}$$

ここで、右辺第1項の2（厳密には1.96）は、想定する信頼度によって統計学的に決まる値です。回答比率プラスマイナス標本誤差の範囲が信頼区間と呼ばれるもので、信頼度95%の場合、真の値（母集団における比率）が95%の確率で、次の範囲におさまると考えることができます。これが、標本調査の精度です。

$$\text{回答比率} - \text{標本誤差} \sim \text{回答比率} + \text{標本誤差}$$

今回の調査では、10,000人の標本から5,658人の有効回答が得られました。回答者全員を対象とする集計結果の標本誤差を、上の式から具体的に計算すると、例えば回答比率が50%の場合は、1.3%、同20%では1.1%となります。このことから、三重県民（18歳以上）全体の意識を推定するために十分な精度を得ていると考えられます。

次表は、いくつかの $n$ （回答者数）と $p$ （回答比率）の組み合わせについて、信頼度95%の標本誤差を計算した早見表です。

標本誤差の早見表

回答者数(n) \ 回答比率(p)	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
	(95%)	(90%)	(85%)	(80%)	(75%)	(70%)	(65%)	(60%)	(55%)	
10,000	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
5,000	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
1,000	1.4	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
500	1.9	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
100	4.4	6.0	7.1	8.0	8.7	9.2	9.5	9.8	9.9	10.0

なお、標本誤差の計算は、特定の属性区分（例えば性別が女性など）の回答者 $n$ 人とその回答比率 $p$ という組み合わせについても同様です。上の表は、そのような標本誤差の早見表としてもご覧ください。

